

2022.7 参院選へ向けて連帯兵庫みなせん方針案

2022/2/14 連帯兵庫みなせん 第 68 回世話人会

2021.10 衆院選の総括を経て、本年 7 月に迫った参院選へ向けての「新たな方針」案を以下のようにまとめました。2022 参院選へ向けた「第 5 次連帯兵庫みなせん」の運動方針案として、「2021 衆院選総括と 2022 参院選へ向けた討論集会」（4 月 10 日（日）予定）への提起とします。

1. 2022.7 参院選へ向けた情勢の認識と選挙の位置づけ

自公連立による長期政権の中で、政治、経済、社会の全般にわたる課題と深刻な危機が進行しています。3 年目に入った新型コロナ感染症のパンデミックは、世界で感染者が 4 億人を突破し、死者は 580 万人を超え、国内でもオミクロン株のまん延で一日の感染者数はピーク時は 10 万人ペースが続き、死者も過去最大を更新する中で 2 万人を超え、全国的に医療崩壊状態になっています。こうした事態に岸田政権は適切な対応ができず、安倍・菅政権とその本質は変わらない姿を日々露呈しています。

こうした自公政権の政治の転換を図るべき立憲野党は衆院選以降、6 年間続けてきた野党共闘の枠組みに綻びをきたしています。11 月末の代表選挙で執行部を一新した野党第一党の立憲民主党は参院選への方針をいまだに明確にできないまま揺れ動き、共産党を含めた野党共闘の枠組みの展望が見えていません。1 月 17 日から始まった通常国会でも野党の共同歩調が崩れ、新年度予算案は数々の問題を抱えながら早々と衆院を通過しようとしています。

先の衆院選で自公に維新を加えた改憲勢力で 3 分の 2（310 議席）を大きく上回る 334 議席を許した結果、7 月に迫った参院選は、安倍政権以降の憲法改悪を許さないために参院での改憲勢力 3 分の 2 議席を阻止することが最重要課題になっています。国民民主を 9 条改憲反対勢力に加えても、43 議席を確保しなければ改憲勢力 3 分の 2 を阻止できません。一人区だけでなく複数区においても「1 議席でも多く」確保することが至上命題になります。

2. 兵庫選挙区における候補者一本化を、なぜ求めるのか

2016 年参院選から定数が 3 に増えた兵庫選挙区で、連帯兵庫みなせんが前回 2019 年参院選には早くから「候補者一本化」を求めてきたのは、その前 2016 年参院選における苦い経験からでした。2016 年参院選は定数が 3 に増えたにもかかわらず、3 期目をめざした民進党（当時）現職が落選し、自公と維新に議席をすべて奪われました。選挙前から厳しい情勢の中で野党候補者の一本化を求める声もありましたが、「複数区は切磋琢磨して野党勢力を広げるべきだ」という政党サイドの姿勢と、定数が増えたのだからという油断もあって“共倒れ”の惨敗を喫しました。

野党候補を一人に絞っていたら、容易に議席を確保できていた苦い経験でした。この選挙では大阪選挙区（定数 4）も民進の現職は次点の共産新人とともに落選し、維新 2 議席と自公で占められました。このような経験もあって連帯兵庫みなせんは、2019 年参院選では選挙 1 年半以上も前の 2018 年年初から「野党候補の一本化」を野党各党に呼び掛け、政党公認以外の第三の候補の模索も含めて統一候補の擁立へさまざまな努力を重ねました。

しかし、1 年後の 2019 年 2 月には立憲、共産両党の候補が擁立された中で、さらに一本化を働きかけましたが実らず、最終的には選挙公示まで 10 日を切った時点で一本化を断念。より当選可能性が強かった立憲民主党の女性新人候補を独自候補でたたかう共産を除いた 5 党で全面支援することを決定しました。立憲候補は自民新人を約 3 万票差まで追い詰めたが及ばず、再び共倒れになりました。

この選挙では大阪選挙区も共産現職と立憲の新人候補は共倒れし、再び野党議席がゼロとなり、兵庫と同様に参院選挙区での野党議席を失いました。

両府県とも、現状では「一本化」しなければ、野党議席を奪還できないのは明白だからです。

3. 京阪神と関西で“参院野党議席全滅”の危機への対応と「一本化」の方策

関西ではすでに参院選挙区は、大阪、兵庫で計14の定数すべてで野党議席を失っています。定数2の京都では2016年に当選（当時は民進）した福山哲郎・立憲民主前幹事長と2019年に当選した共産党の倉林明子・党副委員長が議席を確保していますが、次期参院選は福山氏に厳しい風が吹いています。昨年衆院選で自民党に次ぐ得票を得て重点選挙区として参院選擁立を表明している維新と、国民民主党代表代行の前原誠司氏が連携する動きを示しており、福山5選に危ういランプが点滅しています。

兵庫ではすでに自民、公明、維新の現職3名に加えて共産が昨年11月に女性新人の小村潤元尼崎市議の擁立を発表し、立憲は2月22日に女性新人の相崎佐和子県議の擁立を発表しました。れいわ、国民民主も擁立の動きがあり、現時点では政党サイドから野党候補を調整する動きは見えません。大阪ではれいわ新選組が女性新人のやはた愛氏の擁立を発表している以外には野党候補はまだ発表されていませんが、前回参院選や昨年衆院選の結果を見る限り、両府県とも野党候補を一本化しない限り議席の確保は厳しい状況にあり、京都でも失うと京阪神で全滅の事態を招きかねません。

他方、与党側も自公の連携に軋みが大きくなっており、2016年以来築いてきた自公の相互推薦方式が破算になりかけています。前回参院選における兵庫選挙区での「自民による過剰な公明支援」によって自民新人が危うく落選しそうになったことから、自民県連内の反発が全国的な自公連携体制の揺らぎにつながっています。公明はすでに自公相互推薦を諦めて独自選挙の方針を表明しており、公明の組織票では当選が厳しい兵庫では野党に有利な状況も生まれています。

そうした状況を踏まえると、兵庫も大阪も野党候補を一本化すれば、ほぼ確実に議席を奪還できる状況が期待できます。一本化するために、共産が有利な得票実績を持つ大阪と立憲が有利な実績を持つ兵庫で、両府県の野党が互いにすみ分けることによって、野党2議席を確保できる可能性が生まれます。京都での民主系と共産の厳しい確執の経緯や、広がる国民と立憲の溝を考えると京都での野党一本化は厳しいだけに、兵庫と大阪での柔軟な対応が参院での「与党3分の2阻止」に決定的な影響を与える可能性もあります。

したがって、厳しい情勢下にあるからこそ、憲法9条改悪を阻止する状況をつくるために一つでも多く野党議席を増やすことに全精力を傾けることです。

4. 厳しい情勢乗り越え、野党候補の「一本化」実現へ前進しよう

立憲野党の共闘へ向けての体制づくりは、中央でいぜん厳しさを増しています。立憲の泉代表は「（共産党との）これまでの連携は白紙にする」と言及（1/31、BSフジ）し、共産側は「一方的な反故は受け入れられない」（幹部）と反発を強め「政党間の協議」を求めています。泉代表は「27日の立憲党大会までは応じられない」としています。こうした背景に連合の「共産との野党共闘批判」が色濃く反映していることは間違いありませんが、中央での野党共闘体制進まない限り、府県境を越えた候補者一本化が進む見通しもまた厳しいのが現実です。

3月になっても一本化の見通しがつかない場合には、あらためて方針を見直すことに迫られます。

その際の選択肢としては、もはや「3度目の“共倒れ”覚悟の複数候補支援」の方針は、連帯兵庫みなせんとしては選択肢として挙げられません。一人区も含めて、この6年間続いてきた「市民と野党の共闘」の路線が破綻の淵に瀕していることを受け入れざるを得ません。市民連合が指摘しているように「野党共闘つぶしをねらう自公や自公政権の補完勢力」の画策、マスコミの歪んだ報道、連合の変質に伴う“分断攻撃”等があったにせよ、国会対策や参院選の取り組みをめぐる野党勢力の中で不協和音や共闘体制づくりが揺れていることは間違いありません。

だからこそ、ここは踏ん張って、兵庫と大阪で野党議席を確保することを唯一の目標として、前進すべきだと考えます。そのための行動を始めましょう。

以上

<本方針に関わる参考資料>

1) 兵庫における得票状況と参院選の見通し

2016, 2019 の過去 2 回の参院選で、民主系（民進、立憲）と共産の候補が共倒れした。
 2022 でも一本化しない限り、議席獲得は至難の業。
 2016/7 末松信介 641,910 伊藤孝江 542,090 片山大介 531,165
 水岡俊一 420,068 金田峰生 228,811
 2019/7 清水貴之 573,427 高橋光男 503,790 加田裕之 466,161
 安田真理 434,846 金田峰生 166,183
 2019 比例 自民 639,104 (29.33) 維新 472,068 (21.67) 公明 324,578 (14.90)
 立憲 292,456 (13.42) 共産 179,860 (8.25) 国民 88,830 (4.08) れいわ 81,351 (3.73)
 2021/10 比例 自民 666,068(27.40) 維新 779,820(32.08) 公明 297,967(12.26)
 立憲 324,786 (13.36) 共産 151,090 (6.22) 国民 73,458(3.02) れいわ 79,532 (3.27)

2) 京阪神 3 府県の参院選の見通し

大阪、兵庫、京都の 3 府県ともに、一本化しない限り議席獲得は困難な情勢（京都でも失う？）
 ⇒3 府県で棲み分け調整が可能か???

☆大阪（定数 4）前回 2019

梅村みずほ 729,818 (20.88) 維新新
 東 徹 660,128 (18.89) 維新現
 杉 久武 591,664 (16.93) 公明現
 太田房江 559,709 (16.01) 自民現
 辰巳孝太郎 381,854 (10.93) 共産現
 亀石倫子 356,177 (10.19) 立憲新
 にしゃんた 129,587 (3.71) 国民新

☆京都（定数 2）前回 2019

西田昌司 421,731 (44.21) 自民現
 倉林明子 246,436 (25.83) 共産現
 増原裕子 232,354 (24.36) 立憲新
 山田彰久 37,353 (3.92) N国新
 三上 隆 16,057 (1.68) オリーブ新

比例得票（京都）
 2021/10
 自民 338,013
 維新 266,728
 共産 152,865
 立憲 158,980
 公明 113,605
 国民 59,593
 れいわ 42,599

比例得票（大阪）
 2021/10
 維新 1,715,862
 自民 823,963
 公明 539,724
 立憲 363,555
 共産 306,725
 れいわ 114,198

2016 参院（大阪定数 4）
 松川るい 761,424 (20.41) 自民新
 浅田 均 727,495 (19.50) 維新新
 石川博崇 679,378 (18.21) 公明現
 高木佳保里 669,719 (17.95) 維新新
 渡部 結 454,502(12.18) 共産新
 尾立源幸 347,753(9.32) 民進現

2016 参院（京都）
 二之湯智 422,416(39.97) 自民現
 福山哲郎 389,707(36.88) 民進現
 大河原寿貴 211,663(20.03) 共産新
 大八木光子 32,973(3.12) 幸福新
 ※自民は 2022 は二之湯引退し
 京都市議の吉井章（54）擁立
 ※維新も 1 区で比例復活、比例で自
 民に次ぐ得票を背に擁立表明

以上